

3学年だより

高槻市立如是中学校 3学年
令和元年(2019)年9月19日(木)
No. 11

～中学校生活 最後の文化祭 取り組みの様子～

夏休みが明け、実力テストを終え、13日間にわたる文化祭の取り組みが始まりました。

キャストの人は、各教室や特別教室で台本の読み合わせをしたり、立ち位置や動作などの細かい調整に取り組んでいました。実行委員を中心に、何をどう改善したらよいかを考え、生徒たちで劇を作り上げていきました。体育館での最終確認では、汗をかきながら本番に向け、それぞれの役を熱演していました。

一方、大道具や小道具は、「先生、〇〇もってきてください」、「先生、〇〇はどこにありますか」とあっちへこっちへと走り回りながら、制作に取り組みました。照明・音響や衣装はキャストと相談しながら本番に向けての準備に黙々と取り組んでいました。



～中学校生活 最後の文化祭 当日～

3-1 「現実逃避のススメ」



「受験勉強」という壁にぶつかった主人公が、現実から逃げてしまおうか悩みながらも壁に向き合っていくという姿を表現しました。1人ひとりのセリフが多かったのですが、練習に練習を重ねそれぞれの個性的なキャラクターを見事に演じきりました。また背景では、主人公の部屋をリアルに再現し、まるで主人公の部屋に入っているかと思わせる完成度の高さでした。衣装では、無地のTシャツを「ヒヨコ」、「野球少年」、「カウボーイ」、「パプリカ」、それぞれのキャラクターに合ったイメージをデザインするなど、キャストのキャラクターを効果的に表現することができました。

3-2 「夢から醒めた夢」



1人の女の子「ピコ」が、幽霊になった女の子「マコ」と1日だけ入れ替わり、霊界の世界を体験するというストーリーでした。2組の劇は、メソ、天使、悪魔、部長、暴走族など非常に登場人物が多く、一人ひとりの役が非常に重要でした。キャスト一人ひとりが、それぞれのキャラクターの良さを生かしながら演じていました。ピコ、マコ、メソをはじめとする登場人物の過去や行動から「命の大切さ」を考えさせられる作品にすることができていました。また、背景では霊界の異空間を見事に表現し、劇の世界観を創り上げていました。

3-3 「謎の大捜査線 ハーメルンの笛が聞こえる」



見ている誰もが、最後の大どんでん返しにびっくりしたのではないのでしょうか。真実を報道していると思っているテレビや新聞といったメディア。しかしそれが必ずしも本当のことを伝えられてはいない、本当の事とは限らないというメディアリテラシーについて考えさせられる作品でした。銀行強盗?事件からの展開が非常にスピーディーでこの先はどうなるんだろうかとわくわくさせられました。背景や小道具なども1つひとつ完成度が高い仕上がりで、背景は遠近法を用いた3年生らしい作品になっていました。